

平成30年度 第1回千代田区子ども・子育て会議 会議録

日 時 平成30年9月4日（火） 午後6時30分～午後7時36分
場 所 千代田区役所4階 教育委員会室

議事日程

- 1 開会
- 2 委嘱状交付
- 3 議事
 - （1）次世代育成支援計画策定に向けたニーズ調査について
 - （2）平成29年度次世代育成支援計画実績報告書

出席委員（13名）

恵泉女学園大学学長	大日向 雅美
（株）保育システム研究所代表	吉田 正幸
青少年委員	松井 千恵子
主任児童委員	水野 智佳子
グローバルキッズ飯田橋こども園園長	小松崎 珠美
ファミリー・サポート・センター	廣木 朋子
子ども発達センター「さくらキッズ」サービス提供責任者	山崎 佳生子
保育園保護者	山崎 真哉
区民	長岡 美恵
区民	黒木 名奈
子ども部長	大矢 栄一
子ども支援課長	加藤 伸昭
児童・家庭支援センター所長	新井 玉江

事務局（3名）

子育て推進課長	中根 昌宏
子育て推進課 子育て推進係長	小林 真治
子育て推進課 子育て推進係	中原 優

欠席委員（3名）

東京商工会議所千代田支部情報産業分科会副分科会長	舟橋 千鶴子
連合千代田地区協議会書記長	五十嵐 咲子
健康推進課長	舟木 素子

大日向会長	それでは、定刻となりましたので、平成30年度の第1回千代田区子ども・子育て会議を開会したいと思います。 お忙しい中、また、台風で大変な強風の中お越しくださしまして、ありがとうございます。 それでは、事務局から、初めに、事務連絡等をお願いいたします。
子育て推進課長	では、事務局より連絡事項を申し上げます。 この会議は、千代田区子ども・子育て会議条例の規定に基づきまして、原則公開となっております。また、議事録を作成し、区のホームページで公開を後日いたします。この会議録の作成に当たりまして、録音をさせていただいておりますので、ご了承をお願いいたします。公開に当たりましては、委員の皆さんに事前に確認をしていただくようにしております。 次に、本日の会議は、準備をしました資料が、後でご説明いたします。この開会からおおむね8時ぐらいまでの1時間半をめどとしておりますが、山崎委員が、今、電車がとまっているということで、やっぱり交通機関も心配されますので、できれば、1時間半と言わず、早目に終わりになれば、皆さんこの後の交通機関のご心配もございますのでと思っております。どうぞよろしくをお願いいたします。 本日の委員の出席状況です。まず、欠席のご連絡がございましたのは、五十嵐委員と舟橋委員と舟木委員の3名の欠席のご連絡を頂戴しております。 山崎委員につきましては、交通機関がとまっておるのでおくれますというご連絡を頂戴しております。 今、出席しておりますのが過半数を超えておりますので、この会議は条例の第7条第2項の規定に基づきまして、有効に開催されるものであることをご報告いたします。 まず、次に、資料の確認をさせていただきます。 本日の資料は、次第がございまして、資料1の、このクリップどめをしておりますものが資料1でございます。ニーズ調査についてというものでございます。 続きまして、29年度の実績報告、資料2といたしまして、A4横のものでございます。 そして、資料3といたしまして、委員の名簿でございます。 そして、参考資料としまして、千代田区次世代育成支援計画というのが1つございます。 そして、席上配付で、追加でお配りしているものが、「子どもと家庭に関わる総合相談」という児童・家庭支援センター作成のパンフレットと、発達センターさくらキッズと、学童クラブの配置図というのを追加でお手元に配付しておりますが、お手元でございますでしょうか。 資料の不足がありましたらお持ちいたしますが、大丈夫でしょうか。はい。 あと、マイク的使用方法でございますけれども、真ん中のところにスイッ

チがございますので、スイッチを押していただいて発言していただければと思います。で、終わりましたら、消していただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

以上です。

続きまして、委嘱状の交付でございます。資料3の委員名簿をごらんください。今回は、子ども・子育て会議委員で2名の変更がございましたので、委員の委嘱を行います。

最初に、子どもの保護者のところで、前任の堀口真由美委員にかわりまして、山崎真哉委員が新たに加わっております。任期は、平成30年7月24日から31年11月16日の前任の残任期間となっております。

続きまして、行政の区分で、健康推進課長が、渡部委員から舟木素子委員にかわっておりますが、本日、都合によりまして欠席となっております。任期も、同じく31年11月16日までの残任期間となっております。

委嘱状の交付は、お時間の関係で、席上に事前に配付させていただいておりますので、どうぞご確認をお願いいたします。どうぞよろしくお願いいたします。

では、山崎委員、いらっしゃったところ恐縮ですが、一言だけ自己紹介をいただければと思います。

山 崎 委 員

すみません、おくれて失礼しました。前任の堀口委員から引き継ぎました山崎と申します。堀口さんと同じで、麴町保育園の父母の会の会長を引き継いだ形としてやらせていただいております。

ふだんは、大手町にあります金融機関に勤めております。よろしくお願いします。

子育て推進課長

どうもありがとうございます。

では、大日向会長、よろしくお願いいたします。

大 日 向 会 長

それでは、ここからは次第に沿って会議を進めたいと思います。

まず、議事の1、次世代育成支援計画策定に向けたニーズ調査についてです。

事務局からご説明をお願いいたします。

子育て推進課長

新たなニーズ調査についてご説明したいと思います。

新たな委員もいらっしゃいますので、少しだけ前置きを含めて説明させていただきます。

まずは、参考資料のこちらをごらんください。これが前回の平成27年度から開始しております次世代育成支援計画になります。

子ども・子育て支援法で5カ年の計画をつくりなさいということが求められております。それとあわせまして、子ども・子育て事業計画で次世代育成支援計画をつくりなさいという2つの法律に基づいて、この支援計画をつくることとなっております。

今回は、この計画が31年度までの計画になっておりますので、32年度から始まる計画を、この30年度と31年度の2カ年でつくることを考えておりま

す。

今回は、その事前の調査としまして、保護者の子育てに係るニーズの調査を、間もなく開始したいと思っております。そのニーズ調査について、本日、ご意見を頂戴したいと思っております。

では、資料1をごらんいただきたいと思います。

まず、この中とじをされています2つの資料をごらんください。この中とじの2つの資料がニーズ調査ということで、1つは、小学校入学前のお子様の保護者用と、もう一つが小学校の保護者用ということで、2つ用意してございます。このニーズ調査票は、前回の調査票でございます。今回も、同じような調査をするに当たって、国の指針が7月ごろに出るというお話を頂戴したんですけれども、若干作業がおくれているようで、ちょっと、8月の段階では私どものところには届いておりませんでしたので、今回のこの調査票をつくり込むまでに至っておりません。ですので、ちょっと参考で前回のをお示ししております。

前回の調査票の事項をまとめましたものが、このA3縦の表になります。今回の調査も、基本的には、前回の調査をベースに調査を行いたいというふうに思っております。

1枚目のところが就学前児童用の調査項目で、表裏になっております。で、2枚目が小学校児童用の調査票の事項になっております。

この表の見方でございますけれども、一番左の列のところが、前回の調査で示されておりますニーズ量等の推計のために必須とされる項目で、黒の星とか白の星がついております。ですので、このあたりの調査項目については、今回のニーズ調査でも必ず行いたいというふうに思っております。

若干色がついている項目のところが、そのモデルの設問にはなくて、千代田区で独自に追加した項目でございます。そして、一番右端のところで、今回第2期ということで、今回のニーズ調査ではそれらの項目をどうしますかというところで、今、私どものほうで、もう一度ニーズ調査のものを見まして、ここは要らないんじゃないかというものは削除ということでバツの印、そして、一部変更したほうがいいのかという部分については三角の印、あと、区役所の中のほかの部署と調整が若干必要で、まだ答えが出ていないところについては、検討中という形を表記しております。

基本といたしましては、前回の調査が、就学前のお子さんがある調査は、約30分から40分程度の回答時間がかかったということで、就学のお子さんの回答で20分ほどかかったという状況がございますので、前回の調査では回答率が44%という状況でありましたので、できれば過半数を超える50%の回答はいただきたいというふうに考えておまして、そうすると、若干保護者の方の負担を減らしたほうが回答率が上がるのかなというふうに考えておりますので、若干回答数を減らして、回答率を上げるということをできればしたいというふうに思っております。

資料の説明は以上になります。

大日向会長

はい。ありがとうございます。

ただいま事務局からいただいたご説明について、皆様からご意見、ご質問があったらお願いしたいと思いますが。

皆様からご意見、ご質問をいただく前に、きょうは初めての委員の方もいらっしゃるし、このニーズ調査の昨年のバージョンのタイトルが、「千代田区子ども・子育て支援事業計画策定のため」となっていて、もう一つの、先ほど課長が最初にお示しくださったのが、「千代田区次世代育成支援計画」となっています。言葉が二通りあることで、少し混乱があるといけないかと思ひまして、このあたり、吉田副会長から少しご説明いただいてよろしいでしょうか。

吉田副会長

はい。ややむちゃ振りを受けましたけれども。

言葉の問題でございますが、実は千代田区のこの事業計画というのは、2つのもので構成されていまして、1つは、国の法律で言うと、次世代育成支援対策推進法という法律に基づいて、千代田区としての区の行動計画という部分がございます。こちらのほうは、就学前の子どもだけじゃなくて、中高生も含めた幅広い次世代育成支援の施策を網羅的に盛り込んだものでございます。もう一つが、子ども・子育て支援法という法律に基づいてつくられる、一般的には市区町村事業計画、子ども・子育て支援事業計画と言われてございますが、千代田区の場合は、いろんな事情があって、次世代育成支援と同じ言葉を実は使っているんで、ちょっとわかりにくいかと思います。実は、そういう意味で、2つ入ってございます。次世代育成支援の区の行動計画と、子ども・子育て支援の区の事業計画と——あ、失礼。子ども・子育て支援事業計画のほうは、主に小学校就学前の乳幼児のお子さんとその家庭プラス学童保育といった形で、次世代育成支援のほうは、もう少し中高生も含めて幅が広いということでございます。

かつ、今、この1番目の議題でございますが、国で言う子ども・子育て支援法に基づいた区としての子ども・子育て支援事業計画というのは、5年を1期とする事業計画で、当初平成27年度から5年間、つまり来年度、31年度いっぱいまでということで、32年度、つまり2020年度からまた5年間、次期、第2期の事業計画を区としてつくらなければいけないと。

この、区の事業計画というのは、いわゆる幼児教育や保育、それから子育て支援の利用者側のニーズ、需要に対して区としてしっかりとした供給をしましょうという、需要と供給をバランスさせるのが区の計画でございます。そうすると、その需要というのは、現在の需要というのはすぐ把握できますけれども、当然この需要が変化します。今、例えば長時間保育が必要ないといっても、例えば育児休業中であれば長時間保育は必要ない。でも、来年になれば育休明けで保育が必要になる家庭もあるでしょうし、あるいは、今働いているけども、子どもが4歳だけでも、いろんな事情で専業主婦に一遍戻りましたという、長時間保育は必要なくて幼児教育だけでいいという。つまり需要というのは刻々と変化しますので、今度の計画は、平成32年度から、

2020年度から5年間の計画ですので、この5年間の千代田区内の子育て家庭の教育や保育や子育て支援のニーズ、需要を見通して、その需要に対して、質、量とも十分な供給をしましょうと。それを計画的にやりましょうというのが基本でございます。

ただ、5年間の需要の変化といっても、正確に予測はなかなか難しいので、まずはこういうニーズ調査で、子育て家庭、区民のいろんなご意向、希望の状況等をお伺いして、それをもとに少し見通しを立てて、大体このぐらい需要がふえるのかなというような見通しを立てて、それに対して供給を十分やろうということをまたこの会議でご議論いただいて、それを織り込んで、千代田区としての計画ができると。その、ある意味で出発点として、千代田区内の子育て家庭の幼児教育・保育、あるいは子育て支援のニーズ、需要をしっかりと把握しましょうというのが、きょうのこの議論になっているところでございます。

1回、前回やっているんで、基本的には前回の踏襲でございますが、次の5年ですから、いろいろ状況も変わってきたということで、例えばこの中に入っておりますが、国が言っているとおりになれば、来年10月から幼児教育・保育が完全無償になりますので、そうすると、保護者の負担がゼロになりますから、保育時間に関係なく。そうすると、当然それは需要の変化につながる可能性があるんで、そういう項目が要るんじゃないかとか、あるいは委員の皆様方の感覚で、病児保育ってもうちょっと考えたほうがいいから需要をもうちょっと把握したほうがいいんじゃないかとか、子育て支援を、もうちょっとこんなものを充実したい。でもそれを聞く質問がもうちょっとあっていいんじゃないかとか。あるいはここまで聞かなくて、これは別に大体想定内で、質問をもう少し減らして、30分以内に回答できれば回答率も上がるだろうとか。いろんなお立場でいろんなご意見をいただいて、次期事業計画をつくる非常に重要なデータにするということがきょうの大きなテーマでございますので、そういう視点からのご意見をいただきたいということでよろしいですね。はい。

大日向会長

はい。大変詳しいご説明をありがとうございました。

ということでございまして、ここから後は、今、吉田副会長がおっしゃったような方向のことが求められた上での議論だということをお含みいただいて、いろいろご意見をいただければと思います。

先ほど中根課長からもご説明がありましたが、千代田区さんの今回のニーズ調査の方針としては、新しいものは加えていない。前回は踏襲する。つまり比較することを大前提としていらっしゃるということで、新しいものを加えるよりも、むしろ余分なものを、今まで過去見て余分だったものは削除して、回答率を上げようという方向だということでございます。ですから、そのこのマルとかバツ、三角のところをごらんいただいて、さはさりとはここは残したほうがいいとか、あるいはこういう項目は新たに付け加えたほうがいい、そういうご意見をいただければありがたいかなというふうに思うところ

でございます。

私どもから少し長く話し過ぎたかと思しますので、どうぞ委員の皆様からのご意見、ご質問をいただければと思います。

山崎委員 すみません。そもそも論で恐縮なんですが、これを使った効果はどんな感じだったんでしょうか。この調査が非常に役に立ったとか、参考になったなど。もし参考になっていないなら、何か別な要素を入れなきゃいけないということなので、その辺の、これをベースにしているのかというあたりをお聞かせいただければと思います。

吉田副会長 もう一つ説明不足でした。前提として、これ、基本的に国が指針を示し、あるいはこの調査を手引きと示して、前回は調査のひな形まで示しているんですが、基本的には国の指定でこういう調査をかけて、そして国が考え方を示しているんですけども、その調査、データに基づいて、ちょっと、こういう計算をして、教育や保育の需要のデータを出してくださいという仕組みになっていますので、基本的には必須でニーズ調査をしなきゃいけない。そして、この調査の中で、特に教育、保育、子育て支援の項目については、国が考えるような考え方で計算をして、ニーズを何%とかそういう形で基本的には出さなきゃいけないというのが前提です。

大日向会長 役に立った、立たない以前に、これを前提としてニーズを図って策定、計画をつくっていくというものです。

ということでしょうか。そういうことでよろしいですね。

ほかは。どうぞ。

長岡委員 すみません、区民委員の長岡です。

この調査を、この形で前回やったと。で、ニーズ調査、保育園ですとか、いろんな学童ですとか、どこにどれぐらい必要という推計のもとにされていると思うんですが。前回の調査をやった結果、今ある、計画があると思うんですが、その計画で、今、充足されているという認識でしょうか。実態、今、都心の、例えば23区の各自治体のほうに聞いていますと、やはり計画がつくった翌年度からずれていく。実態とずれていく、3年たったらもう使い物にならないという話は、結構自治体の保育課さんから聞きますので、千代田区ではどうだったのかというのをお聞かせいただければと思います。

子育て推進課長 はい。千代田区でも前回つくった後に、1年後に改めて供給量と需要の再作成をし直しております。その計画に基づいて、今の保育園なり学童クラブなりというのをつくっておりますので、一応足りている、この計画に基づいて足りている状況であるというふうには思っております。

長岡委員 ありがとうございます。とすると、この調査では、需要推計というのは、正しくは難しかったということでしょうか。再調査したということですか。

子育て推進課長 つくった当初の数字とはやっぱり若干乖離が生じたので、途中で供給量はもう一度再計算し直したということになります。

長岡委員 ありがとうございます。そうすると、その再調査したときの手法というの

加藤委員

は、このアンケートとは違う方法でやられたということでしょうか。
すみません。子ども支援課長の加藤です。前回その修正を担当していたのは私ですので、私から回答させていただきます。

まず0歳児につきましては、出生数といったところで、非常に読みづらい部分があります。どうしても生まれてくるお子さんの数につきましてはもう、正直どれだけ平均でいろいろ計算し直しても読めない部分がありました。そのため、0歳児の数が、この計画を立てた翌年度の数が非常に計画よりも多かったという状況がありました。計画上の数字と住民票上の数字と比べましても、100ぐらい多かったのです。ですので、これは保育需要だけではなくて、その後5年間、その子たちがどんどん、1年ごとに、27、28、29とどんどん1年進行していきますから、その需要がやっぱり変わってくる。32年度には、今度は学童クラブに来るといった部分もありますので、そういった面を含めて、需要数を再度、上方修正させていただいて、それで計画を見直させていただいたといったところがございます。

このニーズ調査についてはあくまでも、先ほど吉田副会長のほうからもお話がありましたけども、需要を読むというのは本当に非常に難しいなというふうに思っています。需要と、供給量をどうやって増やしていく、これは本当にまちの変化の状況も踏まえて、さまざま見ていかなきゃいけないというふうに思っています。

待機児童がゼロとはいっても、特定園留保の方々に当然入っていない方々もいらっしゃると思いますので、その方々に対してどこまで対応していくのかといった部分を含めると、足りている、足りていないの議論といったところは非常に難しいなというふうにも思っております。

以上です。

大日向会長

ほかにいかがでしょうか。

どうぞ。

水野委員

主任児童委員をしております水野と申します。よろしくお願いいたします。

質問の就学前児童用、問7のところに、子育ては楽しいか、それから小学校の児童用ですね、問7のところ、子育ては楽しいかとあるんですが、これは何を知りたくて質問なさっているのでしょうか。

子育て推進課長

この子育ては楽しいかという割合を、千代田区の基本計画という10カ年計画の中で、数値目標としております。その数値目標に向けて、いろんな子育て等の施策を複合的にやったときに、子育て楽しいねと思える人の数がどのくらい上がったかというのを知るための指標の1つとして、今回のこのニーズ調査の中で伺おうというふうに思っております。

ちなみに、平成26年度のときの現状値が、子育てが楽しいと思う保護者の割合は96%という数字で、31年度の今回の調査では1ポイント上がった97%が目標値で、この計画の最終年度の36年度では98%という、高いといえば高い目標ではありますが、その数値目標としての調査項目として聞きたい

	というふうに思っております。
水 野 委 員	ありがとうございます。私が子育てしていたときにこの質問をされたら、はたと手がとまる項目かなと思ったんです。楽しいだけじゃないじゃないですか、やっぱり子育てって。そうすると、何かこう、本当に純粋に100%楽しいと思ってマルをつけたのではない自分がいたりするので、すごくここはためらうところだと思うので。数値目標があるんだったらこの質問は外せないのかなと思うんですけど、お母さんとかこの回答者が、マルをしたくなるのは、恐らく子育てはやりがいがあるかとか、自分が育っている感じがするかとか、そういった質問のほうでマルはしやすいのかなというふうには思いました。でも、数値目標に対してのパーセンテージが知りたいというんでしたら、それはそれでよろしいのかと思いました。 ありがとうございました。
長 岡 委 員	すみません、たびたび。もう一件、このアンケートを配付する対象なんですけれども、需要推計を正確にやろうというふうにトライされている自治体さんなんかで、豊島区で聞いたお話なんですけど、母子手帳配付時にこの調査を出すと。特に保育園のニーズ調査に特化して、A 4 一枚だけで、その場で、窓口に来たときに、母子手帳を渡すと同時にそのアンケートに答えてもらおうと。どのエリアにいつごろご出産予定でみたいにすると、需要予測を先につかめるということがあって。 前回私もこのアンケートに答えたんですけども、やっぱりすごく長くなるので、途中でこれを断念しちゃう親御さんがいらっしゃるだろうなと思って。何とか頑張ってやりましたけど。そういったA 4 一枚でその場でもう、来てそこで書いてくださいと言われてればできるのと。あと、産まれてからではなく、1年後に産むんだけど、さらに保育園へ入れるとなると、そのまた半年後とかだと思うので、結構先々の需要が読めるかなと思って。ちょっと、質問じゃないんですが、そういった例もあるので、よろしければご検討いただければと思います。
子育て推進課長	はい。ありがとうございました。千代田区でも母子手帳をお渡しするときに、同じような形式で、保育園を利用されるご予約はございますかというのはやっているんですけども、私たちは事後回収の形だった——その場で書いていただいていたか、ちょっと、すみません。はっきり記憶が定かでは……
加 藤 委 員	はがき。
子育て推進課長	そうですね。はがきでたしか返していただくような形になっていたと思うので。回収率自体は、たしかその場で回収ではないので、それほどいい数字ではなかったかに記憶しています。子育ての部門のところと相談して、考えてまいりたいと思っております。
大日向会長	参考としてご意見を伺ってください。 ほかはいかがでしょうか。よろしいですか。
小松崎委員	こども園の園長の小松崎です。 設問の8番なんですけれども、子育てが辛いと思うことがあるかという

ところが削除になっているんですけれども、今現場の保護者の方のお話を聞きますと、やっぱり地方から転勤した方が多くて、母親が例えば病気になったり病院に行きたかったりというところで困っている方がとても多いので、この設問がなくなると事情がわからなくなるのかなと思ひまして、質問しました。

大日向会長
子育て推進課長

削除された理由は何でしょうか。

はい。まず、問題数がちょっと多いかなというところで、少し減らそうと思ったときにどれが減らせるかなと思ったところが、1点目の一番大きな理由ではあるんですけれども。あと、先ほどの具体的に何かに使っている項目でもないというところも2点目の理由としてはございます。

あと、つらいという部分で言いますと、自由記述欄のところで、こんな助けがあるとありがたいとかというのがもしいただけるのであれば、そのようなことも書いていただけるかなというものもありまして、一応項目としては落とそうというふうに、案でございますので、ちょっとご意見を頂戴してというふうに思います。

大日向会長

ご意見があったということでお聞きください。

ほかはいかがですか。

これは、スケジュール感としてはどんなスケジュールで進むんでしょうか。

子育て推進課長

はい。このニーズ調査につきましては、できましたら、この9月いっぱいぐらいで大体の形とさせていただいて、設問の案ができましたところで、10月に入ったところで、その印刷なり発送準備なりというのをしまいたいと思います。

お送りしまして、大体お手元に一月ぐらいあればご回答いただけるかなというふうに思いますので、11月いっぱいぐらいで締め切り、こちらにお戻りいただくようなスケジュールを考えております。で、12月中ぐらいで大体の回答率で使っている概要の集計をして、1月中ぐらいにより詳細な集計をして、2月ぐらいにまたこの会議を開く形で、そこでこんなニーズ調査の結果になりましたというのをお示しできればなというふうに思っております。

大日向会長

はい。ありがとうございます。ということは、委員の皆様にも、いろいろきょうご意見はいただいておりますが、お手元に届いてから日数もさほど多くないということと、この調査の趣旨をきょう改めて確認し合ったということもございますので、この場で出ない意見も、例えば1週間ぐらいのうちに事務局にお届けいただいてというような、そういう余裕はいただくことはできるんですか。

子育て推進課長

はい。その形でも十分できますので。はい。そういうことでも構いません。

大日向会長

それでは、とりあえず今いろいろご意見をいただきましたが、これ以外にも多分、後でお家でゆっくりごらんいただいて、ご意見が出ることもあろうと思いますが、1週間ぐらいのうちに気づきの点がありましたら、事務局

にお届けいただくということで、そこでよほど大きな変更点とか追加がありましたら、事務局と副会長、私のところにご一任いただくような形でよろしいでしょうか。よろしいですか。

(了 承)

子育て推進課長 すみません。もしその場合でしたら、きょうの次第の一番下のところにメールアドレスがございますので、このメールアドレスにそういったご意見を頂戴できれば大変ありがたく思います。もし、でもぜひ電話で話してという方とかがいらっしゃれば電話でももちろん結構ですけども、もし夜改めて見て、夜のうちにお送りしたいということであれば、このメールアドレスにご意見をいただければと思います。

大日向会長 電話よりはメールまたはファクスのほうがいいかもしれませんね。きちっと形に残りますので。ファクス番号もございますよね。はい。じゃあ、後ほど、後で事務局からいただくということで。

議事1に関しましては、とりあえずこのあたりでよろしいでしょうか。よろしいでしょうか。

(了 承)

大日向会長 それでは、議事2のほうに進ませていただきます。平成29年度次世代育成支援計画実績報告でございます。

こちら、まず初めに事務局からご説明をお願いいたします。

子育て推進課長 それでは、資料2をごらんいただきたいと思います。平成29年度のこの次世代育成支援計画の実績報告になっております。

全体といたしましては、20ページほどの資料になってございますので、ちょっとお時間の関係もございますので、施策の目標ごとに、特にこの網かけをしております重点施策を中心にご説明をさせていただきたいと思います。

1ページ目のところからは、まず3番の「保育園待機児童ゼロの堅持と保育サービスの向上」というところについて、子ども支援課長から説明をさせていただきたいと思います。

加藤委員 はい。すみません、子ども支援課長です。「保育園待機児童ゼロの堅持と保育サービスの向上」というところでございます。

こちらにつきましては、実施の状況ということで、29年度末の実績でございます。こちら、2号認定——2号認定というのは3歳から5歳、また3号認定は2つに千代田区のほうは分けてございますが、0歳児と1歳、2歳のお子さんにつきましては、3号認定というところで、そうした区分のほうでやらせていただいております。

この中で、定員につきましては、3から5歳につきましては813名、児童数につきましては670名というところになってございます。3号認定のほうの0歳児につきましては、定員が166名でございますが、児童数179ということで、こちらにつきましては、すみません、ちょっと、定員より上回って受け入れているといったところで。弾力かな。すみません、私立の認可保育園のほうでちょっと頑張っていただきまして、定員よりも多く0歳児のお子さん

を受け入れているといったところもありまして、児童数につきましては179名というところでございます。それから、1歳、2歳につきましても、定員は509名でございますが、こちら弾力化ということで528名の在籍数と。こちらにつきましては、29年の4月も何とか待機児童ゼロと、30年度につきましても、これは今度の次々回ぐらいの実績報告になりますが、待機児童はゼロでございました。

以上でございます。

子育て推進課長 続きまして、同じページで5番のところの学童クラブの事業運営のところの説明をさせていただきたいと思います。

新井委員 皆様、日ごろよりお世話になっております。児童・家庭支援センター所長の新井です。

5番と6番と一緒にご説明させていただきたいと思います。また、こちら、配らせていただきましたA3の資料、学童クラブ配置図というものをご覧いただきたいと思います。

これは、平成30年4月1日現在の学童クラブをこの地図に落としたものでございます。一番最近のものでは、左側の麴町こどもクラブがでございます。こちらは、平成30年4月に開設しました。学校を中心といたしまして、緑が半径300メートル、赤が半径500メートルというところで、区立の学童クラブ、民営の学童クラブ、学校内学童クラブをこの地図の上であらわさせていただきます。

この民営の学童クラブにつきましては、一部の需要ということで、夜の9時まで開設させていただいております。この次の2ページの6も一緒にご説明させていただきますが、学校内には、「アフタースクール」と書いてあるものなんですけれども、学童クラブと、それと放課後子ども教室がでございます。これが6です。共働き家庭の児童を対象といたしました就労支援としての学童クラブと、全ての子どもを対象として、安全安心に子どもの居場所となるような学習やスポーツなどを行っております放課後子ども教室が、この全ての千代田区の学校の中にはございます。この全ての学校内学童クラブ近隣の学童クラブ等に皆さんお入りになりまして、待機児といたしましては、29年度、30年度も待機児はゼロです。

ご説明は以上です。

子育て推進課長 続きまして、3ページのところで11番の「病児・病後児保育」についてご説明いたします。

加藤委員 すみません。また、子ども支援課長です。

病児・病後児保育でございますが、千代田区内、病後児保育室、現在4つございます。区立の麴町保育園、そして神田保育園、ふじみこども園、それと私立認可保育所のポピンズナーサリースクール一番町、こちらの4つで現在病後児保育室をやっているところでございます。

また、病児保育につきましては、こちらについては、シッターさんのほうに病児のほうを、当然費用がかかるところでございますが、こちらについて

は、かかった費用の2分の1で、上限4万円まで助成しているという制度がございます。そちらも含めた形で事業展開をしているところでございますが、こちらの実施状況の病後児保育でございますが、こちらの4つの園でやっている実績といったところで、昨年度末と比べまして、麴町保育園が28年の5月末から病後児保育をやっておりますので、そういった意味で、実施園がふえたといったところもありまして、実績のほうが伸びているという状況でございます。

説明は以上です。

子育て推進課長

続きまして、その下の12番のところ、重点施策ではないんですけれども、若干説明させていただきたいと思います。

私どもの子育て推進課で、公立園と私立の園でお子さんが通っていらっしゃると思いますが、できる限り同じような環境で保育を受けられるようにということで、取り組んでおります。ここにつきましては、保育士、公立と私立両方の保育士の方をお招きして、合同でやった講演会というものの実績が5回というふうに右端のところ載っております。内容としましては、昨年度新たに示された保育指針についての解説ですとか、お子さんが育つように、ハイハイを使ってどのようにお子さんが健康になるかというような、大学の先生をお招きしての講演会ですとかというような形で、講演会を5回開催しております。

29年度については、ほぼ全園からで、延べ319名のご出席をいただいた講演会、研修会等を実施することができました。

以上です。

施策の目標1のところまで、ちょっと長くなりましたので、一旦ここまでで説明をさせていただきたいと思います。

大日向会長

ありがとうございます。

以上のご説明につきまして、ご意見、ご質問がありましたらお願いいたします。

山崎委員

すみません。よろしいでしょうか。番号の11というところなんですけど、病後児保育については、実績がここに書かれてありますが、先ほどおっしゃっていた病児保育のシッターサービスに対する支援というものの、これに対する実績について、もし開示できるのであれば教えていただければと思います。

加藤委員

病児保育の実績でございます。こちら、29年度132件でございました。28年度が94件、27年度が76件でございますので、こちらのほうも、人口の増加とともにニーズのほうがあるというふうに思っております。

山崎委員

病後児保育が216で、病児保育が132、同じ年度で比較しますと。ということは、病児保育のシッターサービス支援というのを使っている人は少ないということになるかと思うんですけれども。働いている人にとっては、結構この病児保育というのは探すのが大変でして、実際探せていないんだらうというのをあらわしていると思うので、もし可能であれば、金銭的な支援では

	なくて、直接的なサポートみたいなものを区で検討していただけると、働いている人にとっては助かるんじゃないかと思います。
子育て推進課長	今のご意見、確かに病児保育の件数に対して、病後児保育の利用数が多いという数字になっておりますので、具体的に病児保育室のようなものがあると、一定程度の利用はあるのではないかなというふうには推察いたします。 このところは区としての課題だとは認識しておりますけれども、まずは実際に実施していただける保育事業者さんと、その連携なんだろうかね、病院、医師の先生といいますか、やっていただけたところを探すというところが結構大きな課題になってくるかなと思います。 すぐに取り組みますというふうには、ちょっと今のところでは申し上げられないんですけども、課題としては十分認識いたしております。
山崎委員	ありがとうございます。
大日向会長	ほかはいかがでしょうか。よろしいですか。 どうぞ。
長岡委員	すみません。区民委員の長岡です。 前回、前々回でも質問させていただいたんですが、千代田区の待機児童のカウントの仕方で、特定園希望ですか、保留児童というのがありまして、これが他区とちょっと比べたときのグラフ、きょうちょっとお持ちしているんですが、資料を配らないほうがいいですかね、時間的に。あ。じゃあ、また別途お話しさせていただくということで。 お願いしていたのは、定義について見直しをできませんかという、ちょっと、ご相談をしていたんですが。その検討状況を、もしあれば教えてください。
加藤委員	そもそもの「特定園」という言い方が、少しというか、大分わかりづらい部分あるので、ちょっと、それにつきましては、まだ課内で少し揉んでいるといった状況でございますが。要は希望している園に行けていないというところがその趣旨ではありますので、「保留」というのもちょっとどうかな、すごく役人らしい言葉遣いなので、ちょっと、そこをもう少し何か見直す言葉がないかなと、役人なのでなかなか新しい発想は出てこないの、逆に、皆様から何かいい言葉とかをご提案いただければありがたいなと。 「特定」という言い方がちょっと、すごく役所らしいなというふうには思っておりますので、そこをちょっと変えたいなというふうには思っております。
大日向会長	ほかはいかがでしょうか。よろしいですか。 (なし)
大日向会長	それでは、次の資料のご説明に移ってください。
子育て推進課長	はい。それでは、4ページから施策目標2のところ、重点施策を中心に説明させていただきたいと思います。4ページの3番のところで、「子どもと家庭に関わる総合相談事業」。
新井委員	はい。また、お手元に配らせていただきました「子どもと家庭に関わる総

	合相談」です。児童・家庭支援センターでは、0歳から18歳までの子どもと家庭にかかわる総合相談、また幼児から高校生までの一般的な教育相談、スクールカウンセラーの派遣、その他相談機能を一元的にいたしまして、さまざまな相談に幅広く対応しているところでございます。 また、虐待相談等も受け付けております。虐待相談につきましては、皆様、新聞報道等でもご存知のとおり全国的に大変ふえております。千代田区でも、若干ではありますけれども、ふえているところではあります。ただ、このようなさまざまな相談事業、また裏面にあります親と子の絆プログラム等によりまして、虐待の未然防止、また早期発見、早期支援に努めているところでございます。 説明は以上です。
子育て推進課長	はい。続きまして、5ページのところで、番号7番の「子育てひろば事業」について。
新井委員	はい。子育てひろばについてですが、子育てひろばは、区内の児童館また子育てひろば あい・ぽーと麹町等で行っております。主には0歳児から2歳児の親子を中心に、地域の子育て中の親子が集い、交流の場としての子育てひろばを開設しております。親子向け各種事業ですとかプログラムの実施、また子育ての悩みなどの相談を受けまして、できるだけ育児不安、またそういった不安の解消に努めているところでございます。 これは、各児童館ですとか、また、子育てひろば あい・ぽーと麹町ですとか、お便りを毎月出しております、あとはホームページ等で毎月の事業等を周知して、来ていただいているという状況です。
子育て推進課長	はい。続きまして、6ページのところで、12番と13番のところを一緒にご説明させていただきたいと思います。
新井委員	12番の「訪問型一時預かり保育事業」なんですけど、この子育て・家族2級支援者養成講座となっておりますが、現在は千代田区子育て支援員研修として、国の子育て支援員研修にも対応いたします研修として実施しております。こちらは、地域子育て家族支援を担う人材を養成するため、実績のある特定非営利法人あい・ぽーとステーションと一緒に、子育て支援活動に必要な知識、経験を習得するための講座を開催しているところでございます。 次のファミリー・サポート・センター事業です。こちらは、社会福祉協議会に委託しております、こちら、両方とも大変ニーズが高い事業となっております。支援会員さんが少ないというところが目下の悩みでして、皆さま、もしそういった方、ご興味のある方にお声をかけていただきたいと思いますとなっております。 説明は以上です。
子育て推進課長	続きまして、7ページは飛ばさせていただいて、8ページのところで、24番の「次世代育成手当」です。 こちらは、高校生相当の児童を有する保護者の方に、児童一人当たりにつき月額5,000円を支給するものと、妊娠19週を経過した方の、保護者でいい

んですがね、の方に4万5,000円を支給する、千代田区独自の手当を給付する事業です。年々お子様の数がふえておりまして、29年度はそれぞれ1,428名と696名の方にそちらの手当を支給したという実績になってございます。

続きまして、9ページですけれども、同じように「こども医療費助成」でございます。

全国では義務教育までのお子さんの医療費助成に取り組んでいる自治体が多いかと思いますが、千代田区では高校生まで医療費助成を拡大して取り組んでおります。こちらもしっかりお子さんの数の増加に伴って、年々実績はふえておりまして、特に乳幼児の医療費助成の件数が、昨年度6万5,000件から7万1,000余りということで、そちらの件数が非常にふえております。同じように、義務教育等は5万9,800件、高校生医療費は1万2,000件程度という実績となっております。

施策の目標2のところまでの説明は以上となります。

大日向会長

ここで切りますか。はい。

長岡委員

じゃあ、施策2に関して、ご意見、ご質問があればお願いいたします。

区民委員の長岡です。

5ページの事業7について、子育てひろば事業、ちょっと聞き漏らしてしまったかもしれないんですが、利用者と事業参加者と、この違いはなんでしょう。

新井委員

ひろば利用ということは、ひろばは毎日、例えば児童館は9時から5時まであいております。こちらがひろばの利用者です。それに対しまして、ひろばで事業をやっています。例えば9月の児童センターで言いますと、リトミックであるとか、またなかよしタイムといった未就学親子を対象としております事業、こちらが事業参加者となります。その違いなんです。

長岡委員

ありがとうございました。

1つ、あい・ぽーと麹町のほうは、先日機会がありまして伺わせていただいたんですけども、あい・ぽーと麹町の割と近くに住んでおりますが、地図を見ても、存在にそれまで気がついていなかったことに気がつきまして。地図を確認して、非常に至近距離まで行ったんですが、それでも見つからなくて。もしかすると私のように、せっかくな施設があるのに、気づかないで通り過ぎている人たちもいるかもしれないということもありまして、もしかすると、もっとう、外側から子育てひろばだよみたいな感じで見えるような施設だと、入りやすかったりとか、利用しやすいのかなと思ひまして。その、何でしょう、目立ちますかね。はい。結構、前をぐるぐるしちゃったんですけど。

子育て推進課長

私の記憶では、結構目立つかなと思ったんですけども、やっぱり知らない方から見ると、もしかしたらやっぱりわかりづらいのかなというようなご意見だと思います。ちょっと、改めてもう一度、入り口なりの表示なりを見て、どんな工夫ができるか考えてみたいと思います。はい。ありがとうございます。

大日向会長	ほかはいかがでしょうか。よろしいですか。 （な し）
大日向会長	それでは、ないようでございます。 次のご説明に移っていただければと思います。
子育て推進課長	はい。では、ここから施策の目標3からは、まとめて3、4、5というふうにあわせて説明させていただきたいと思います。 施策の目標3のところでは、12ページの2番の「子ども発達センター」について説明をさせていただきたいと思います。
新井委員	はい。こちらも、パンフレットのほうを配らせていただきました、子ども発達センターさくらキッズ、皆様ご存じかと思いますが、お開きになっていただきたいんですけれども。 さくらキッズは、お子さんの発達に関して気がかりなことや心配なことについて専門職が相談に応じる、身近な子育て支援施設です。また、お子さん一人一人の興味や力に合わせたプログラムで楽しく通っていただきながら、健やかな成長と発達についてお手伝いをいたしますということで。敷居の低い、これは本当にちょっと心配というところで、お電話なりご相談していただいて、通いやすい、来やすいというところで、子育て支援施設となっております。 このような、プログラムの的には、きちんとプログラムをやっておりますが、全て無料となっております。 施設概要の職員構成ですが、現在は非常勤職員も2名ふやして11名体制で対応しております。利用していただいている方も年々ふえておまして、28年度は292人の登録がありましたが、29年度は323人と、利用していただく人数も大変ふえているというのが現状でございます。 説明は以上です。
子育て推進課長	はい。続きまして、若干飛びますが、15ページのところで、もうこのあたりから、すみません、重点施策というものはないので、かいつまんで主な子育て推進課の事業をご説明させていただきたいと思います。 15ページの10番のところで、「保育所等指導・監査」でございます。これは区内の民間園、主に民間の保育園につきまして、私どもで適正に保育が運営されているかというのを、回りまして指導あるいは検査するという事業でございます。29年度は、28年度に引き続き7施設を回ってございます。主に新たにできた保育所を中心に回っております。昨年度はポピンズナーサリースクール一番町、あるいはクレアナーサリー市ヶ谷など、7カ所を指導・検査で回っております。 続きまして、12番のところなんですけれども、これ、新井所長の児童・家庭支援センターでつくっていただいている「子育て応援ガイドブック」。発行部数については、ここにありましており8,100部なんですけれども、今回のニーズ調査のアンケート調査の中に、このガイドブックを入れて、いろいろな子育て施策についてお知らせするというふうに、前回と同じように、その

ように考えております。ですので、たくさんの子育てに関する事業が網羅されているガイドブックがお手元に届くように、できる限りそれでまた回答していただければなというふうに、これが、このアンケートに答えていただくと、ここにだんだん施策として反映されて、こういう事業になっていくんだよというのがわかるようにということもありまして、入れさせていただいて、送付するようにしております。

施策の目標、その後の17ページ以降、4、あるいは19ページ以降の施策の目標5のところについては、この書類をもって内容のご説明とかえさせていただきます。

以上です。

大日向会長

はい。ありがとうございました。

ただいまのご説明について、ご質問、ご意見がありましたらお願いをいたします。

吉田副会長

すみません。次回以降、次年度以降と言ったほうがいいでしょうか。1点だけ、要望でございます。

最初に申し上げたように、この千代田区の計画というのは、子ども・子育て支援事業計画と次世代育成支援計画と、2つドッキングした形になっているんですが、子ども・子育て支援事業計画のほうは、需要と供給をバランスさせる需給計画でございますので、実績報告はこれでいいんですが、28年度と29年度の比較という以上に、量の見込みを出していますので、需要の量の見込みに対して実績がどうであったかという比較がわかるようにしていただいたほうが、本来の筋に沿っているだろうと。

それから、幾つかのデータについては、例えば赤ちゃんの全戸訪問事業については、件数よりも、あれは全戸訪問ですから、98.6%行ったとか、表示が件数では多分状況がわからないので、物によってはパーセンテージであらわしていただくとか、ちょっとそういう工夫を次回以降やっていただくとうれしいなという要望でございます。

子育て推進課長

はい。ありがとうございました。

大日向会長

ほかはいかがですか。よろしゅうございますか。

(なし)

大日向会長

それでは、大体きょう予定しておりました議事は全て終了となりますが、追加で何か皆様からご意見、ご質問があれば、いただきたいと思います。よろしいでしょうか。

それでは、先ほどお願いいたしましたニーズ調査に関しての追加のお届けがありましたら、メールまたは——ファクス番号はわかりましたか。

子育て推進課長

はい。申し上げます。ファクス03-3264-3988になります。繰り返します。03-3264-3988でございます。

大日向会長

はい。それでは、1週間をめどに、メールまたはファクスでご意見をお寄せいただければと思います。ご意見がなければ、きょういただきましたものをもとに、事務局でおつくりいただいて、ニーズ調査に入っていただくとい

うことになるかと思います。

それでは、最後に事務局から連絡事項等ありましたら、お願いをしたいと思います。

子育て推進課長

はい。次回の会議の予定となりますけれども、先ほどの工程のところ若干ご説明しましたとおり、このニーズ調査の結果がまとまったあたりの2月ぐらいに開催させていただければと思っております。具体的な日程は、また、会長、副会長のご予定を含めて調整させていただいて、また近くなりましたらお知らせさせていただきたいと思います。

以上です。

大日向会長

はい。ありがとうございました。

それでは、以上をもちまして、第1回子ども・子育て会議、終了といたします。

外は大分風が強くなっているようでございます。お気をつけてお帰りくださいますように。ありがとうございました。